

「平成26年度 業務の試行」について

平成26年6月3日
国土交通省中部地方整備局

1)平成26年度 業務試行について

■今般、クローズアップされている、2つの課題への対応

- ①プロポーザル方式の適切な選定をはじめとする、「業務内容に応じた適切な発注方式の選定」
- ②事務の簡素化と併せて技術者成績の配点ウェイトを拡大し、品質を確保する「技術者評価を重視した選定」

■平成26年2月28日に開催された「調査設計等分野における品質確保に関する懇談会」(座長:小澤一雅東京大学大学院工学系研究科教授)に提案を行ったところ、平成26年度に試行を実施し、評価したうえで、本格導入を検討することが了承された

■国土交通省大臣官房技術調査課より、試行の具体的な内容と進め方、評価に必要なデータ類を予め示し、より円滑に実施されることを目的として、「平成26年度業務試行実施要領(案)」が示されたことから、中部地方整備局においても業務試行を実施する

試行の項目

- 試行1 業務の内容に応じた適切な発注方式の選定について
- 試行2 技術者評価を重視した選定について

業務内容に応じた適切な発注方式の選定について

現状の課題認識

1) 総合評価落札方式等を標準とする業務の中にプロポーザル方式を活用すべき業務があるのではないか。

- 例えば、道路の概略設計や予備設計については、企画立案に高度な技術力を要するとともに、業務成績においても、他の方式に比べ、プロポーザル方式の方が良好となっている。

2) プロポーザル方式で実施すべき業務が他の方式で実施されており、業務成果の品質の低下をまねく恐れ。

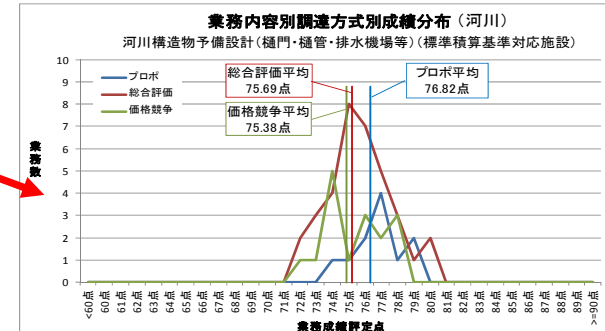
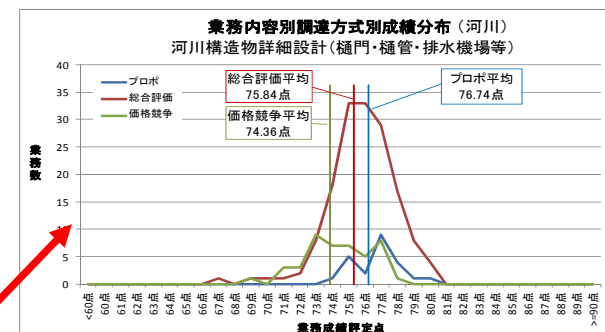
- 運用ガイドラインの「標準的な業務内容に応じた発注方式事例」図でプロポーザル方式に位置付けられた工種において、他の発注方式で過半近くも実施されている業務が見受けられる。

【河川事業】

推奨方式	業務詳細	調達方式別件数(赤字は推奨方式)							合計	推奨方式 適用率
		プロポ	総合評価				価格	随契		
			全体	1:1	1:2	1:3				
プロポ	河川整備基本計画、河川整備計画、河道計画検討	187	8	5	3	0	2	0	192	94.8%
プロポ	環境管理基本計画	9	0	0	0	0	1	0	10	90.0%
プロポ	環境調査・分析(高度)	109	49	29	17	3	34	0	188	55.9%
プロポ	洪水予測システム検討	65	3	2	1	0	5	0	73	89.0%
プロポ	事業評価	81	9	6	3	0	2	0	92	88.0%
プロポ	自然再生計画検討	30	7	2	5	0	5	0	42	71.4%
プロポ	水文データ照査検討	27	0	0	0	0	4	0	31	87.1%
プロポ	特殊構造物予備・詳細設計(樋門・樋管・排水機場等以外)	48	33	12	19	2	9	0	90	53.3%
総合評価	プロポ 河川景観設計	7	1	0	1	0	1	0	9	88.9%
総合評価	プロポ 河川構造物予備設計(樋門・樋管・排水機場等)	2	4	0	2	2	0	0	6	100.0%
総合評価	プロポ 環境アセスメント	40	24	18	6	0	2	0	66	97.0%
総合評価	プロポ 危機管理等(演習)	42	12	8	3	1	4	0	58	93.1%
総合評価	プロポ 治水経済調査	2	2	2	0	0	0	0	4	100.0%
総合評価	プロポ 氾濫解析	34	6	3	2	1	3	0	43	93.0%
総合評価	河川構造物詳細設計(樋門・樋管・排水機場等)	31	178	111	57	10	46	4	259	68.7%
総合評価	河川構造物予備設計(樋門・樋管・排水機場等)(標準積算基準対応施設)	16	38	25	12	1	17	0	71	53.5%
総合評価	河川水辺の国勢調査	4	141	115	26	0	3	0	148	95.3%
総合評価	施設健全度調査	16	10	4	6	0	4	0	30	33.3%
総合評価	堤防・護岸設計	32	175	123	46	6	79	1	287	61.0%
価格競争	総合評価 水文・水質観測	14	58	55	3	0	19	0	91	84.6%
価格競争	総合評価 耐震調査	33	29	9	20	0	0	0	62	46.8%
価格競争	河川台帳作成	3	3	3	0	0	2	0	8	25.0%
価格競争	施設点検調査	6	33	18	15	0	20	1	60	33.3%
	合計		829	823	550	247	262	6	1920	

*『建設コンサルタント業務等におけるプロポーザル方式及び総合評価落札方式の運用ガイドライン』(平成23年6月)

* 調達方式別件数は、上記運用ガイドラインの標準的な業務内容に合致した発注件数を集計



* 出所: 国土交通省調べ(平成24年度)

業務内容に応じた適切な発注方式の選定について

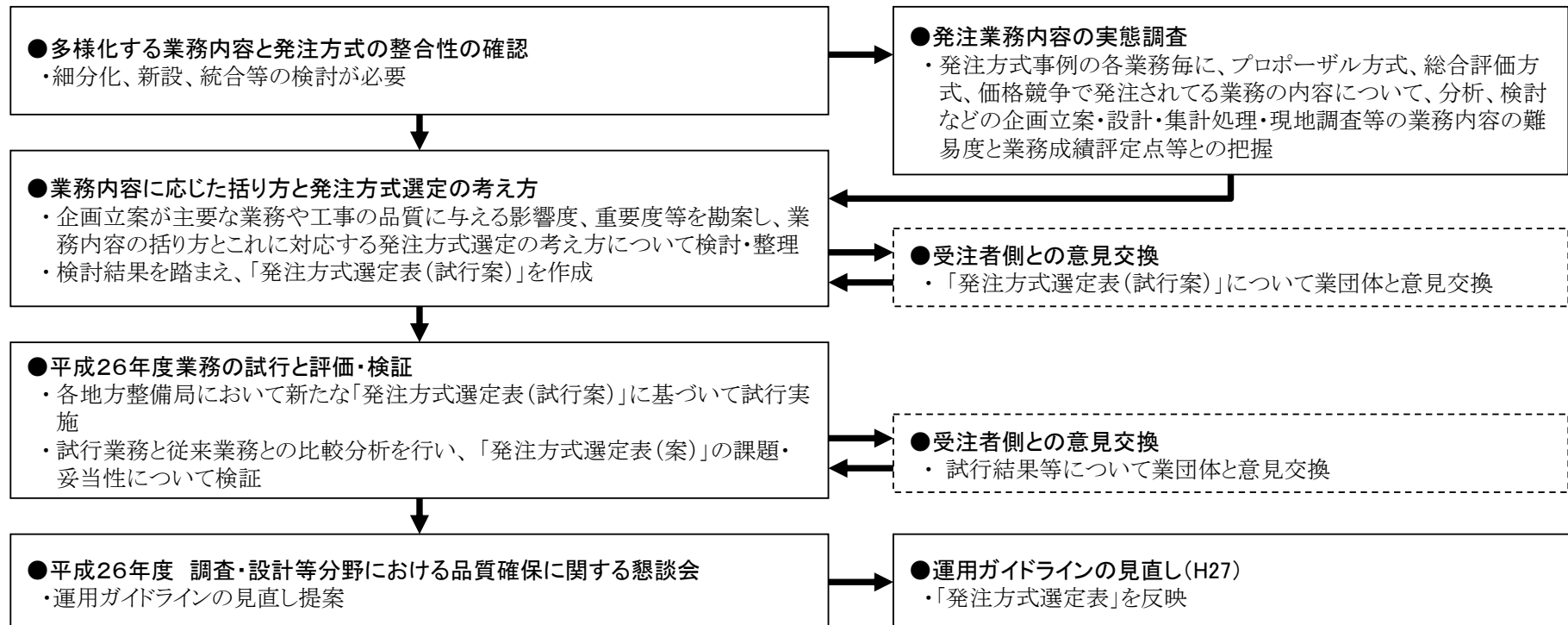
論点と検討の方向性

論点 業務内容に応じて適切な発注方式が選定できるように、具体的に示す必要があるのではないか。

方向性 2）適切に発注方式が選定できる選定表の策定

・運用ガイドラインの「標準的な業務内容に応じた発注方式事例」図に替えて、客観性、透明性を確保し、容易かつ、明確に適切な発注方式の選定ができる資料を策定する。

【進め方(案)】



平成26年2月28日

調査・設計等分野における品質確保に関する懇談会(平成25年度 第1回) 資料5

業務内容に応じた適切な発注方式の選定について

道路事業の例「標準的な業務内容に応じた発注方式事例」
図の見直し

新たな「発注方式選定表」の整理イメージ

事例図上の業務名	発注方式
道路網整備計画検討	プロポ
道路・橋梁等構造物景観設計	プロポ
道路予備設計(中心線決定)	プロポ
道路予備設計(中心線決定)	総合評価
PIプロセス、社会実験実施	プロポ
PIプロセス、社会実験実施	総合評価
交差点設計(立体交差)	プロポ
交差点設計(立体交差)	総合評価
交通需要予測検討	プロポ
交通需要予測検討	総合評価
構造物予備・補修設計(大型、特殊)トンネル設計	プロポ
構造物予備・補修設計(大型、特殊)トンネル設計	総合評価
構造物詳細設計(大型、特殊)	プロポ
構造物詳細設計(大型、特殊)	総合評価
道路交通等現況分析	プロポ
道路交通等現況分析	総合評価
環境アセスメント	プロポ
環境アセスメント	総合評価
道路概略設計(路線比較検討、最適路線選定)	プロポ
道路概略設計(路線比較検討、最適路線選定)	総合評価
事業評価	プロポ
事業評価	総合評価
整備効果分析検討	プロポ
整備効果分析検討	総合評価
防災対策検討	プロポ
防災対策検討	総合評価
環境基礎調査(文献、現地調査等)	プロポ
環境基礎調査(文献、現地調査等)	総合評価
交通安全対策、渋滞対策等検討	プロポ
交通安全対策、渋滞対策等検討	総合評価
定期点検結果の診断	総合評価
構造物予備設計(一般)	総合評価
構造物詳細・補修設計(一般)	総合評価
道路予備設計(用地幅決定)	総合評価
道路詳細設計	総合評価
道路詳細設計	価格競争
交差点設計(一般)	総合評価
交差点設計(一般)	価格競争
定期点検、緊急点検	総合評価
定期点検、緊急点検	価格競争
環境調査(常時観測等)	価格競争
交通量観測	価格競争
各種資料整理	価格競争

境界線上から
プロポへ移行

総合評価から
プロポへ移行



境界線上から
総合評価へ移行

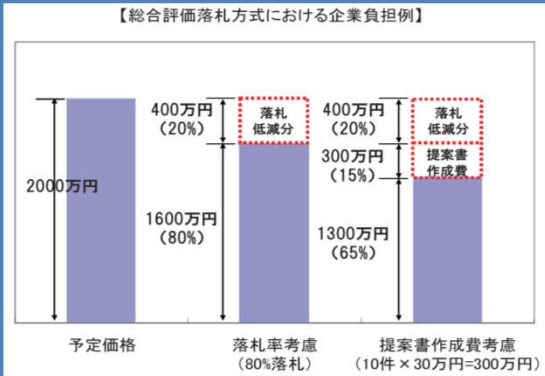
発注方式	事例図上の業務名	業務の内容
プロポ	道路網整備計画検討	
プロポ	水文調査(分析等含む)	
プロポ	道路・橋梁等構造物景観設計	
プロポ	道路予備設計(中心線決定)	
プロポ	PIプロセス	
プロポ	社会実験実施	
プロポ	交差点設計(大規模立体)	
プロポ	交通需要予測検討	
プロポ	構造物予備設計(大型・特殊)	
プロポ	構造物詳細・補修設計(大型・特殊)	
プロポ	定期点検結果の診断	
プロポ	道路・交通等現況分析	マニュアル等で手法が決まっているものを除き、調査計画、企画立案を伴うもの等
総合評価	道路・交通等現況分析	マニュアル等で手法が決まっているもの
プロポ	環境アセスメント	企画立案から実施するもの、方法書作成等
総合評価	環境アセスメント	調査項目の追加補足調査及びそのとりまとめ
プロポ	道路概略設計(路線比較検討、最適路線選定)	新規にルーティングを行うもの等
総合評価	道路概略設計(路線比較検討、最適路線選定)	既存ルートの部分的見直し
プロポ	事業評価	全体計画を含むもの等
総合評価	事業評価	交通量予測結果に基づき便益計算のみ行うもの
プロポ	整備効果分析検討	企画立案から実施するもの、委員会運営を伴うもの
総合評価	整備効果収集・整理	データ収集、簡易な分析のみ
プロポ	防災対策検討	工法検討を行うもの、委員会運営を伴うもの
総合評価	防災対策設計	詳細設計のみ
プロポ	環境基礎調査(文献・現地調査等)	企画立案から実施するもの、貴重種を含むもの
総合評価	環境基礎調査(文献・現地調査等)	補足・継続調査
プロポ	交通安全・渋滞対策等検討	事故分析、渋滞分析、委員会運営
総合評価	交通安全・渋滞対策設計	予備・詳細設計のみ
総合評価	構造物予備(一般)	
総合評価	構造物詳細・補修設計(一般)	
総合評価	道路予備設計(用地幅決定)	
総合評価	道路詳細設計(一般)	新規に実施するもの、構造物を含むもの
総合評価	交差点設計(立体)	
総合評価	定期点検、緊急点検	
価格競争	道路詳細設計(修正)	
価格競争	交差点設計(一般)	
価格競争	環境調査	常観等定型的調査
価格競争	交通量観測	
価格競争	各種資料作成他	

技術者評価を重視した選定について

現状の課題認識

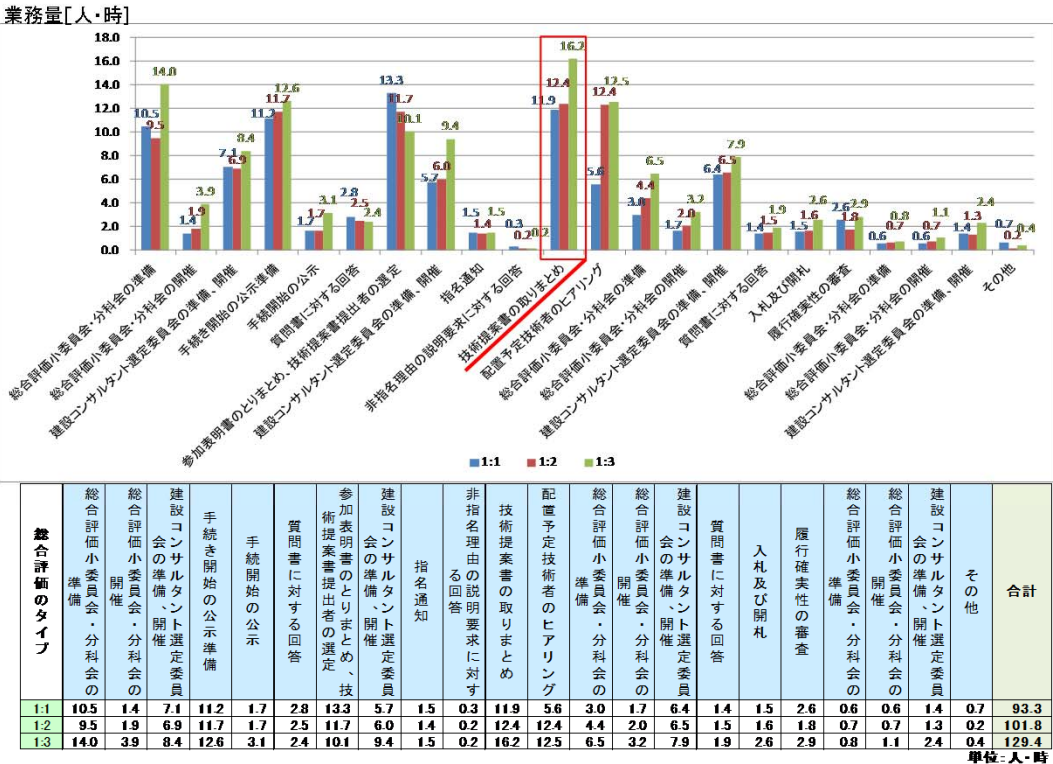
- 1) 総合評価落札方式の標準型(1:2、1:3)の業務は、評価テーマに関する技術提案の作成や技術提案の審査とりまとめなど、受注者、発注者双方ともに、負担感が大きい。
- 受注者における技術提案の作成経費負担が継続的に蓄積するとともに、発注者が行う技術提案の審査とりまとめに12～16時間・人を要している。

【受注者側の技術提案書作成費】



※出典:「平成25年度 建設コンサルタント白書 平成25年6月 一般社団法人 建設コンサルタンツ協会」

【発注者側の審査等の配点比率別の事務作業量】



技術者評価を重視した選定について

現状の課題認識

2) 技術者個人の過去の成績は、今回成績に概ね比例しており、信頼性が高い指標といえるが、現在は、評価ウエイトが小さく、非効率ではないか。

○管理技術者の過去の業務成績が高くなるほど、今回の成績が高くなる割合が増加。

- ・平成20～23年度の4箇年の業務成績の平均が76点以上の管理技術者の7割以上が平成24年度の業務成績の平均が76点以上。

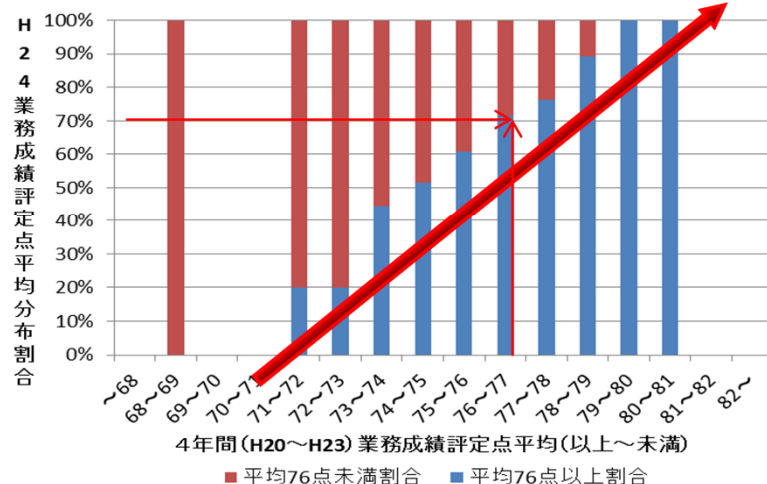
3) 評価テーマについては、配点割合が高くなっても、成績が向上するといった相関関係は、確認できない。

※技術者成績では、評価ウエイトが高まると業務成績も比例して高くなる。

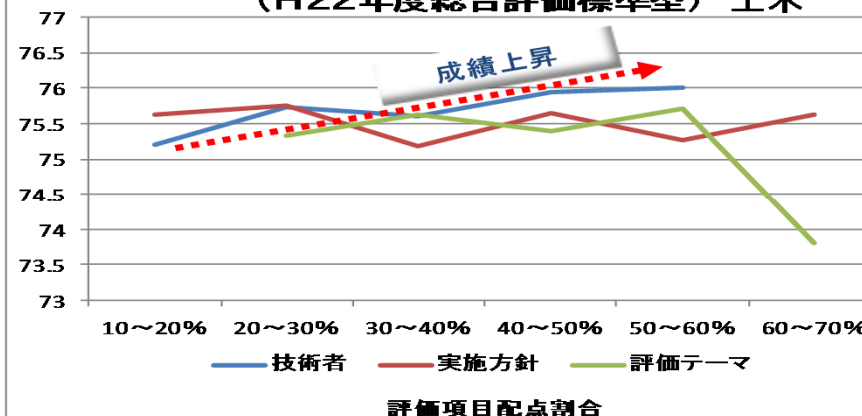
○「実施方針」、「評価テーマ」は、配点割合が高くなっても、ほぼ75.5で一定の平均的成績を示している。

一方、「予定技術者の経験及び能力」は配点割合が高くなればなるほど、平均成績も76点と、1点ほど高くなる傾向が確認された。

過去4年間の業務成績平均とH24年度成績の関係



入札段階評価での配点率別成績平均
(H22年度総合評価標準型) 土木



※平成22年度の土木関係建設コンサルタント業務について、入札段階での「予定技術者の経験及び能力」、「実施方針」、「評価テーマ」の配点割合別で分析

2) 試行1 業務内容に応じた適切な発注方式の選定について

(1) 対象業務

河川事業、道路事業、地質調査、測量調査で発注される全業務

※ 都市事業、下水道事業、建築は、当面、見直しを行わないため、試行対象外

(2) 試行の内容

○上記4事業毎に示す「図1 【H26試行】発注方式選定表」に基づき、適切な発注方式を選定。

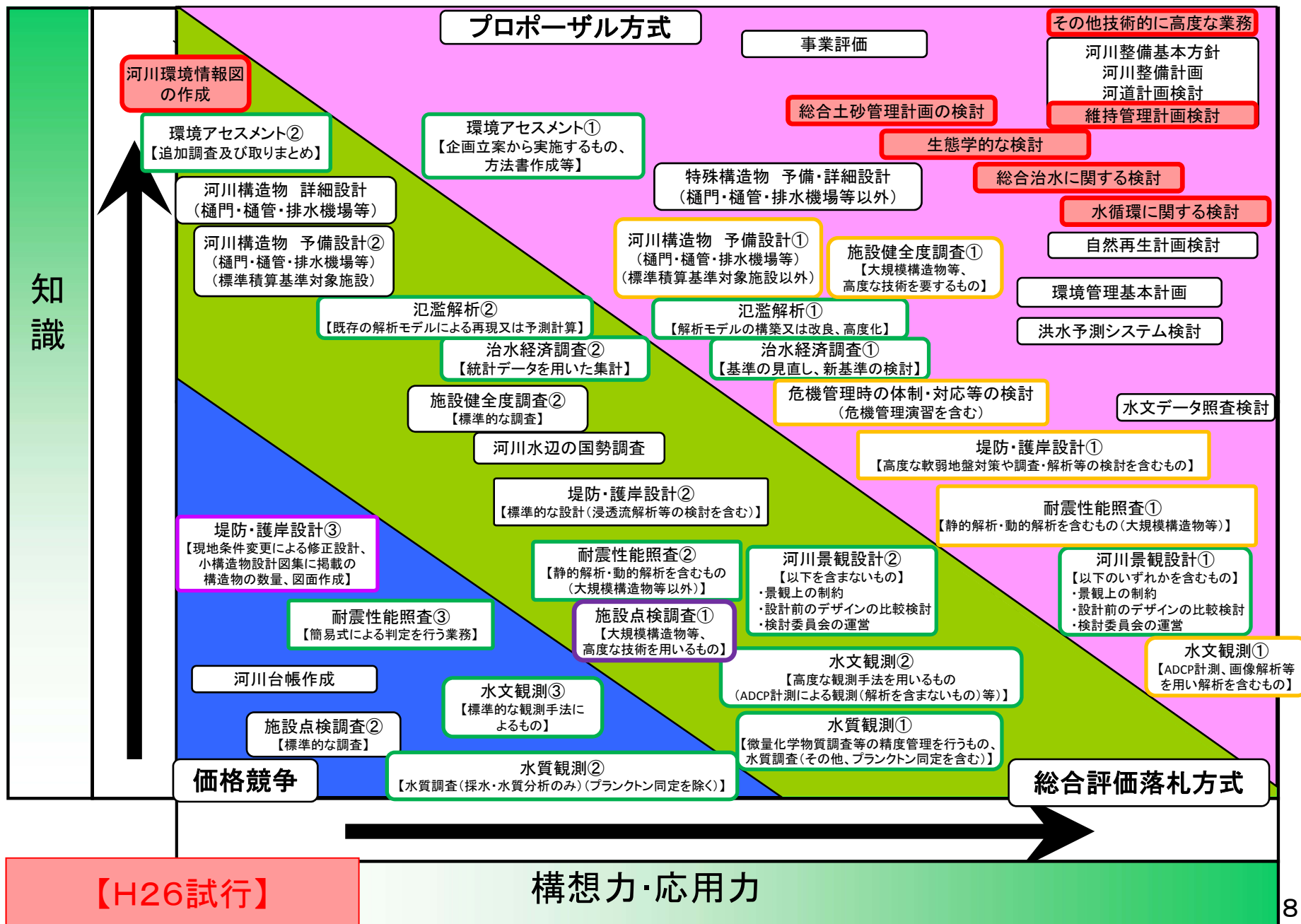
○試行は、平成26年6月16日以降に公示される業務全件を対象

○なお、地質業務、測量調査においては、図1に基づき発注方式を選定することを基本とするが、業務特性、業務の円滑な実施の観点等から必要な場合においては、H26年度中部地整ガイドラインにおける入札・契約手続きの選定に沿って、価格競争方式(簡易公募型強競争入札方式、指名競争入札方式)とすることが出来る

○また、中部地方整備局における総合評価落札方式は一般競争入札であることから、業務によっては多数の者が競争参加することが想定されるため、受発注者の負担軽減の観点から、競争参加資格要件を満たす者が30者程度以上となるよう、競争参加資格要件における業務拠点等を設定

【河川事業】

境界線上のものを分割 プロポーへ移動等 総合評価へ移動等 価格競争へ移動等 新規に追加



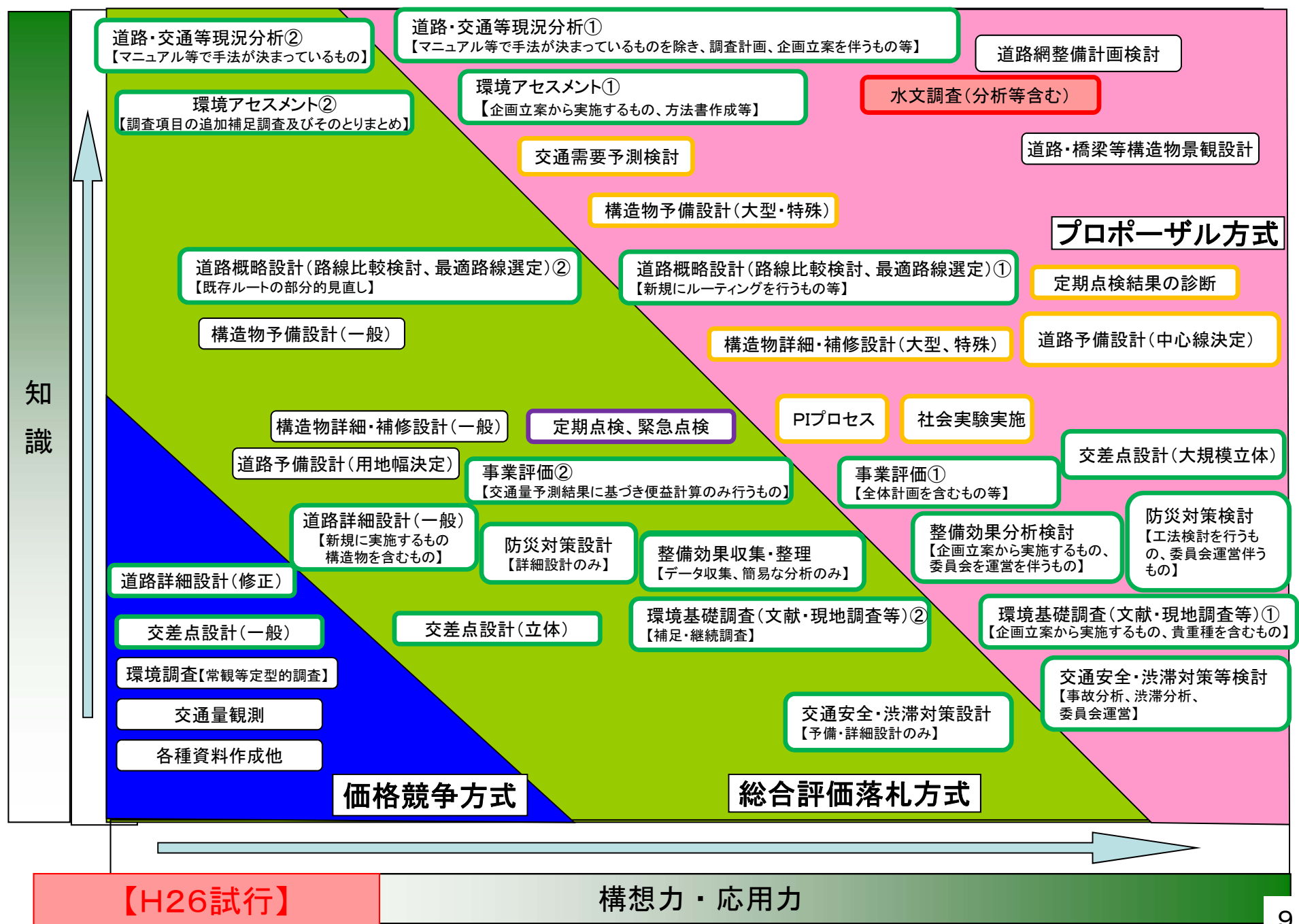
【道路事業】

境界線上のものを分割

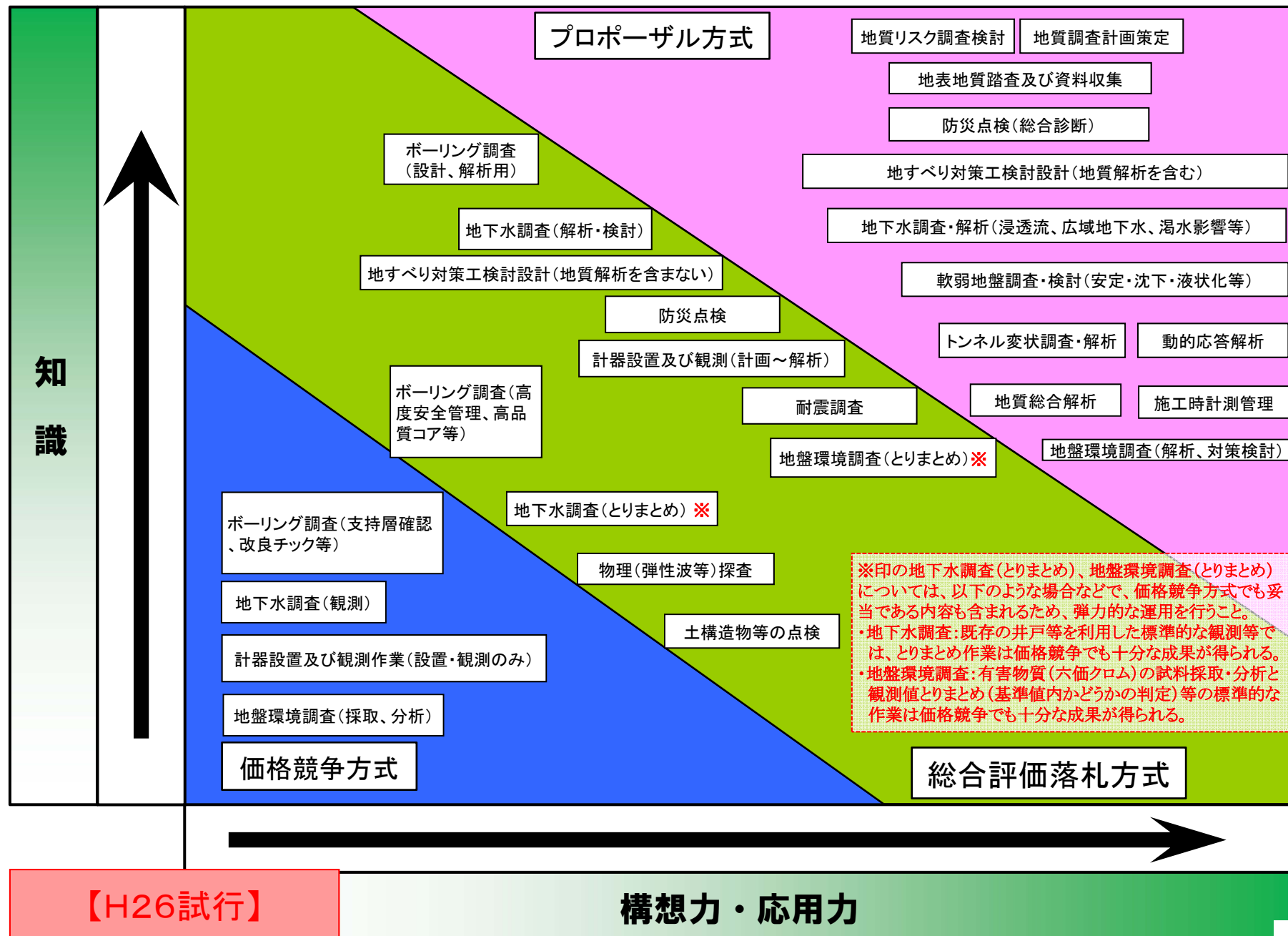
プロポへ移動等

総合評価へ移動等

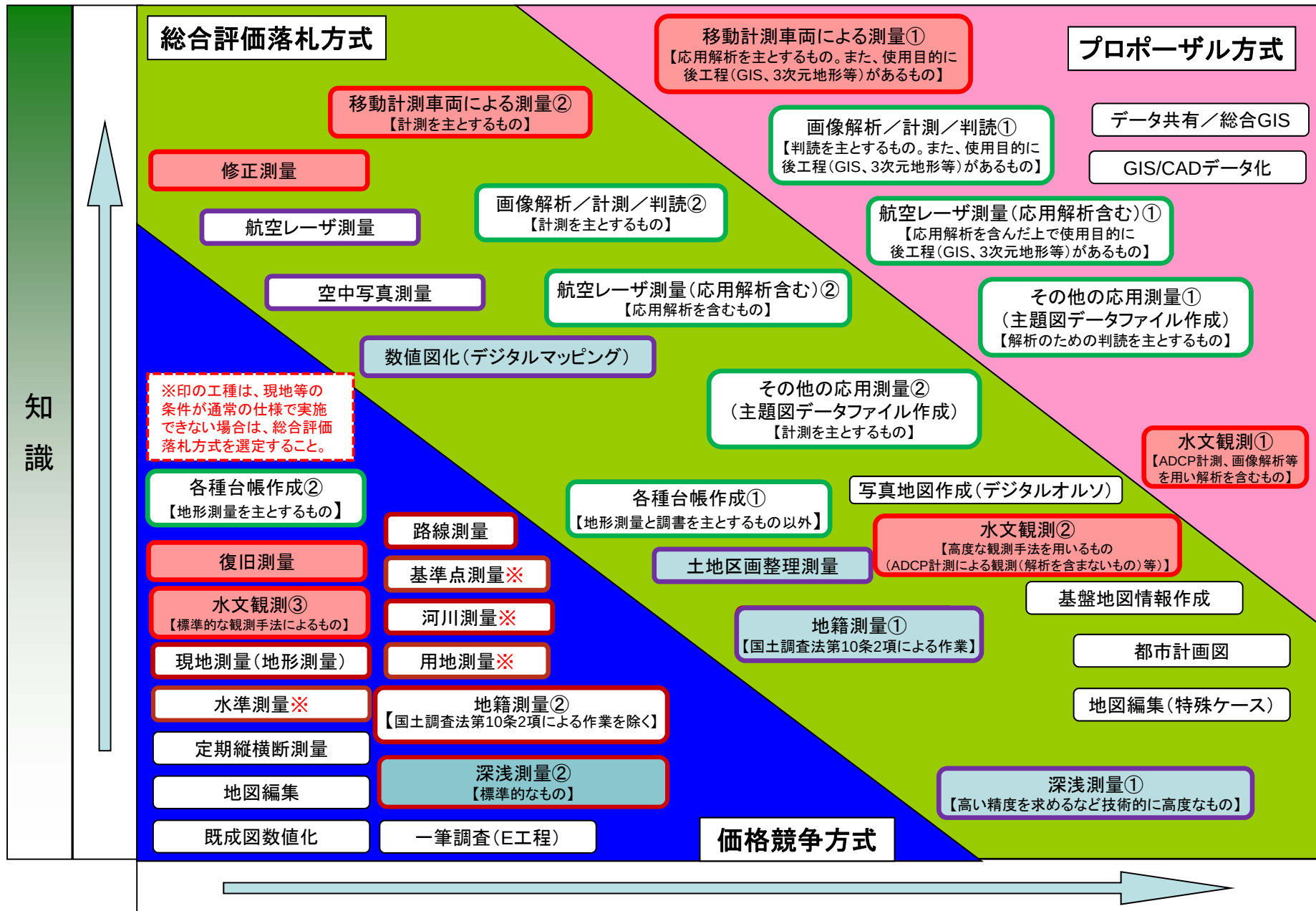
新規に追加



【地質調査】



【測量調査】 境界線上のものを分割 プロポへ移動等 総合評価へ移動等 価格へ移動等 新規に追加



【H26試行】

構想力・応用力

2) 試行1 業務内容に応じた適切な発注方式の選定について

(3) 試行業務の評価

試行結果の分析等に必要なデータを収集するため、以下の調査を実施する。

① 業務公示段階の調査

- ・「【H26試行】発注方式選定表」に対応した業務区分等

② 契約後の調査

- ・入札結果に関する調査
契約額等、参加表明者数・入札参加者数等、特定テーマ、技術点配点

③ 業務成績評定点の調査

- ・業務成績評定点及びその詳細内訳の調査
技術者評定、業務評定

平成26年2月28日

調査・設計等分野における品質確保に関する懇談会（平成25年度 第1回） 資料5

業務内容に応じた適切な発注方式の選定について

【調査内容】

○業務の出口段階の情報として、試行業務と従来業務の業務成績評定点（内訳を含む）を調査。

出口段階：業務成績評定点の調査項目（案）

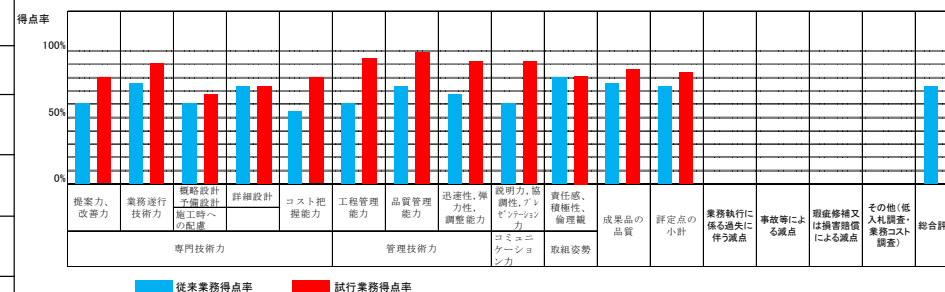
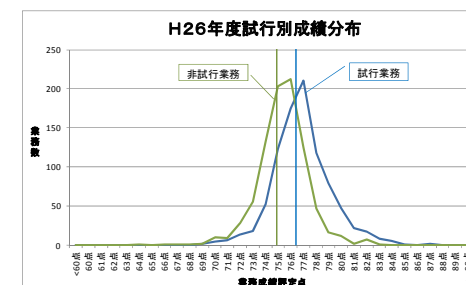
評価項目		管理技術者	担当技術者	照査技術者
専門技術力	提案力、改善力	9.5	9.5	—
	業務遂行技術力	19.0	19.0	—
	施工時への配慮	概略設計 予備設計	—	—
		詳細設計	—	—
	コスト把握能力	—	—	—
管理技術力	工程管理能力	9.5	9.5	—
	品質管理能力	9.6	9.6	66.7
	迅速性、弾力性、調整能力	4.8	4.8	—
コミュニケーション力	説明力、協調性、プレゼンテーション力	4.8	4.8	—
取組姿勢	責任感、積極性、倫理観	9.5	9.5	—
成果品の品質		33.3	33.3	33.3
評定点の小計		100.0	100.0	100.0
業務執行に係る過失に伴う減点		0.0	0.0	0.0
事故等による減点		0.0	0.0	0.0
瑕疵修補又は損害賠償による減点		0.0	0.0	0.0
その他（低入札調査・業務コスト調査）		0.0	0.0	0.0
総合評定点		100.0	100.0	100.0

【分析・評価方法】

I. 試行業務と従来業務との比較分析

・試行業務と従来業務の成績について同種業務間で比較し、試行による成績について分析・評価

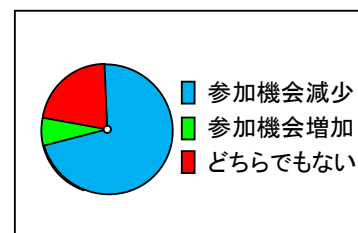
I. 分析イメージ



II. アンケート結果の整理

・アンケート結果より、試行による効果・影響の有無について整理

II. 分析イメージ



3) 試行2 技術者評価を重視した選定について

(1) 対象業務

総合評価落札方式で発注すべき内容の土木関係建設コンサルタント業務のうち、下記の設計業務等から指定した試行規模件数を抽出する。

【河川事業】堤防・護岸設計

【道路事業】道路予備設計(用地幅)、構造物予備設計(一般)、
構造物詳細・補修設計(一般)、道路詳細設計(一般)

2) 試行の内容

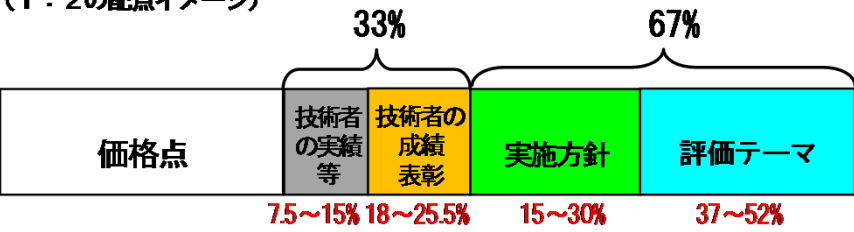
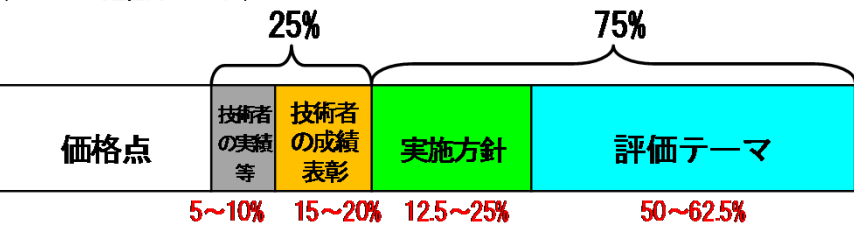
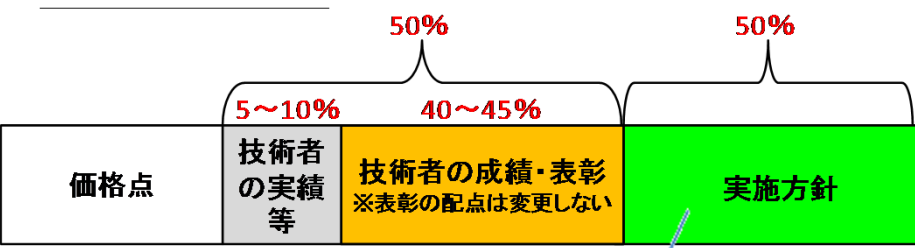
○入札契約方式は、一般競争総合評価落札方式(1:3)

○特定テーマは設定しない

○ヒアリングによる技術点の配点を行わず、ヒアリングを通じた技術者の評価、技術提案書の内容確認を行い、確認結果は書面審査とあわせて、配置予定管理技術者、技術提案書の評価(技術点)に反映

○試行件数は、本試行2の対象業務のうち、平成26年6月16日以降に公示される業務の概ね2割程度(事業毎)とする。

参考:本省 試行2 技術者評価を重視した選定について

平成26年度総合評価落札方式(標準型)にて発注すべき業務の分類	
右記以外全ての業務	業務の試行
	対象
	試行件数
※評価テーマは設定しない ※価格点と技術点の割合は総合評価落札方式(1:3)の配点イメージ	
※配点イメージは従来通り	
(1:2の配点イメージ)	
	
(1:3の配点イメージ)	
	
	
ヒアリングの実施 試行業務では、入札段階の技術評価において、予定管理技術者の過去の実績や業務理解度、業務実施手順等について、配置予定管理技術者と面談し、当該業務の履行に必要な技術力の確認を行うものとする。	

3) 試行2 技術者評価を重視した選定について 中部地方整備局における業務試行のイメージ

○対象業務

平成26年6月16日以降に公示される次の設計業務等から抽出する。

【河川事業】堤防・護岸設計

【道路事業】道路予備設計(用地幅)、構造物予備設計(一般)、
構造物補修詳細・補修設計(一般)、道路詳細設計(一般)

●一般競走総合評価落札方式(1:3))

価格点20点		技術点60点				27点(45%)	
【H26ガイドライン】	1点 (2%)	6点 (10%)	6点 (10%)	20点 (33%)	10点 (17%)	17点 (28%)	
評価点		技術者の 成績・表彰	企業実 績・成績 等	技術提案書 (実施方針・業務実施体制)	技術提案書 (特定テーマ)	ヒアリング	
技術者実績							
【試行2】							
評価点		技術者 資格・実績	技術者の成績・表彰	企業実 績・成績 等	技術提案書 (実施方針・業務実施体制)		
		6点 (10%)	24点 (40%)	6点 (10%)	24点 (40%)		
		技術者 30点(50%)			企業+技術提案書 30点(50%)		

5点 18点 4点

●ヒアリングの実施

試行業務では、入札段階の技術評価において、予定管理技術者の過去の実績や業務理解度、実施方針、業務実施体制等について、配置予定管理技術者と面談し、当該業務の履行に必要な技術力の確認を行うものとする。

※ヒアリングの結果は書面審査とあわせて「実施方針等」の項目に反映させる。

※なお、その際、予定管理技術者の手持ち業務量(〇件、〇円)についても聴き取りを行うものとする。

3) 試行2 技術者評価を重視した選定について 中部地方整備局における業務試行のイメージ

通常業務

基本事項評価 (技術者)	業務実績	1
	業務成績	4
	技術者信頼度 (優良表彰の有無)	2
	計	7
基本事項評価 (企業)	業務実績	1
	業務成績	4
	業務拠点	1
	企業信頼度 (指名停止等の措置)	(-5)
	計	6
技術提案書評価	実施方針	10
	業務実施体制	10
	特定テーマ	10
	計	30
ヒアリング	技術者としての基本的な技術力	7
	技術提案書の内容に関する知識	10
	計	17
合計		60

H26 業務試行

基本事項評価 (技術者)	資格要件	3
	業務実績	3
	業務成績	20
	技術者信頼度 (優良表彰の有無)	4
	計	30
基本事項評価 (企業)	業務実績	1
	業務成績	4
	業務拠点	1
	企業信頼度 (指名停止等の措置)	(-5)
	計	6
技術提案書評価	実施方針	12
	業務実施体制	12
	計	24
合計		60

(3) 競争参加資格要件

18

3) 試行2 技術者評価を重視した選定について

(3) 競争参加資格要件

競争参加資格要件項目			競争参加資格要件
	配置予定 管理技術者	資格に関する要件	配置予定管理技術者については以下に掲げる資格のいずれかを有すること。 技術士（総合技術監理部門－建設又は建設部門）、土木学会が認定した特別上級土木技術者、上級土木技術者、1級土木技術者（平成22年度迄の特別上級、上級、1級技術者も含む）、RCCM（RCCMと同等の能力を有する者も含む。）のいずれかの資格を有している者又はこれらと同等と認められる者であること。 なお、これらと同等と認められる者とは次のとおり。 ・関連分野の論文により学位を取得した工学博士 ・関連分野の著述、論文、委員会活動、その他顕著な業務実績があり、総合評価審査委員会等の専門家から適格と認められた者 ・関連分野の20年以上の実務経験と十分な業務実績があり、総合評価審査委員会等の専門家から適格と認められた者 ・これらと同等と認められる関連資格の取得者（筆記試験、面接試験など適切な試験方法により認定されたものに限る）
		業務実績に関する要件	平成16年度以降に完了した以下に示す同種又は類似業務において、1件以上の実績を有していること。ただし、業務の実績のうち地方整備局委託業務等成績評定要領に基づく業務成績が60点未満の場合は実績として認めない。 ・同種業務：○○○○○○○○○○○○○○○○○○○に関する業務 ・類似業務：○○○○○○○○○○○○○○○○○○○に関する業務
		手持ち業務に関する要件	平成○○年○月○日（公告日）現在の全ての手持ち業務（本業務を含まず、特定後未契約のものを含む）の契約金額合計が4億円未満かつ手持ち業務の件数が10件未満である者であること。
	技術提案書に関する要件		入札参加希望者は、次の事項について技術提案書を提出すること。 ① 実施方針 ② 業務実施体制
競争参加資格要件の有無			上記の要件を全て満足する

3) 試行2 技術者評価を重視した選定について

(4) 技術点に関する基準

		配点イメージ	総合評価 (試行2 技術者評価重視)
			1:3
基本事項評価 (管理技術者)	資格要件	技術士、土木学会が認定した特別上級土木技術者、上級土木技術者	3
		土木学会認定した1級土木技術者、RCCM	0
	業務実績	同種	3
		類似	0
	業務成績	中部地整平均79点以上	20
		中部地整平均78点以上～79点未満	19
		中部地整平均77点以上～78点未満	18
		中部地整平均76点以上～77点未満	17
		中部地整平均75点以上～76点未満	14
		中部地整平均74点以上～75点未満	11
		中部地整平均73点以上～74点未満	7
		中部地整平均72点以上～73点未満	4
		中部地整平均71点以上～72点未満	2
		中部地整平均70点以上～71点未満	1
		他機関における過去4年間の同種・類似実績が有る	1
		中部地整平均60点以上～70点未満	0
		中部地整平均60点未満	欠格
		他機関における過去4年以内の同種・類似実績が無い	
	技術者信頼度 (優良表彰の有無)	中部地整の実績	4
		中部地整以外の全国レベル	2
		無し	0
合計	合計	30	

3) 試行2 技術者評価を重視した選定について

(4) 技術点に関する基準

		配点イメージ	総合評価 (試行2 技術者評価重視)
			1:3
基本事項評価 (企業)	業務実績	同種	1
		類似	0
	業務成績	中部地整平均76点以上	4
		中部地整平均74～76点	3
		中部地整平均72～74点	2
		中部地整平均60～72点、 他機関での4年以内の同種・類似有	1
		中部地整平均60点未満、 他機関での4年以内の同種・類似なし	0
	業務拠点	県内に営業拠点を有する	1
		中部地方整備局管内に営業拠点を有する	0
	企業信頼度 (指名停止等の措置)	該当無し	0
		該当有り	-5
	合計	合計	6
技術提案書評価	実施方針	業務の内容、目的を理解し、業務特性を踏まえた 業務実施方針の妥当性が高い	12
	業務実施体制	実施体制について、業務を遂行する上でより適切 な体制が確保されており、業務経験者や専門技術 者を配置している	12
	合計		24
総合計			60

3) 試行2 技術者評価を重視した選定について

(4) ヒアリング

○ヒアリングは競争参加資格がないもの以外の全員について行う

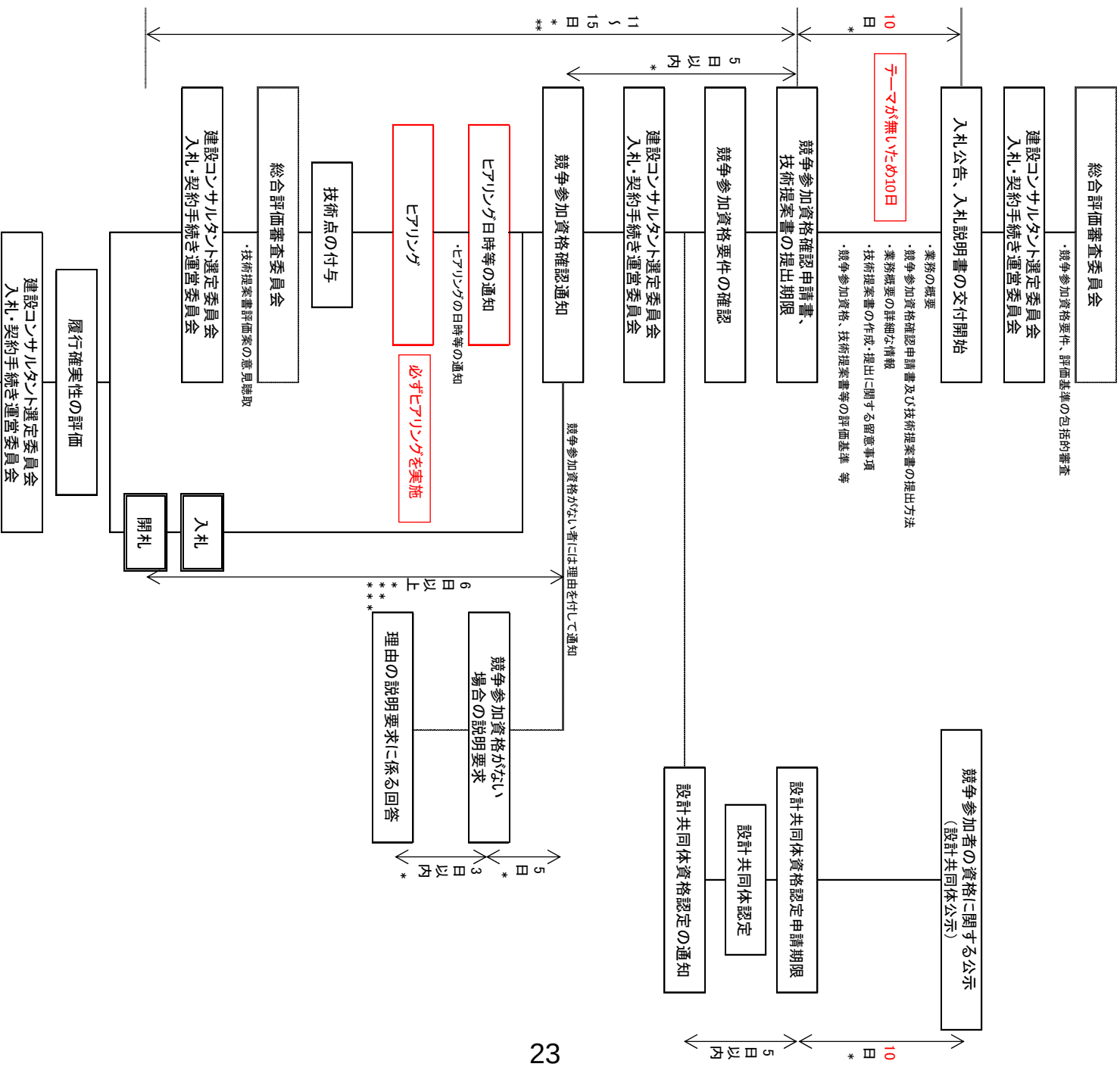
○ヒアリングを通じた配置予定管理技術者の評価、技術提案書の確認結果は書面審査とあわせて、配置予定管理技術者、技術提案書の評価に反映させる

○なお、その際、配置予定管理技術者の手持ち業務量(○件、○円)についても聴き取りを行う

■ヒアリングの確認項目、確認の考え方

確認項目		確認の考え方
配置予定 管理技術者	業務実績等	・技術者自身の業務実績に自ら主体的に携わったことの確認
		・業務に関連する技術的知識の保有の確認
		・業務に関連する技術的知識の保有の確認
		・業務経験が豊富であることの確認 等
	手持ち業務量	・公告日及びヒアリング実施時現在等の手持ち業務量(○件、○円)
技術提案書	実施方針	評価項目の着眼点を確認する
		・目的、条件、内容の理解度
		・本業務における特殊性(業務特性)に基づいた着眼点(課題)等
		・業務実施手順を示す実施フロー及び工程表の妥当性
		・当該業務の着眼点(課題)や留意点と、その対応策についての記載
	業務実施体制	評価項目の着眼点を確認する
		・業務を遂行する上での実施体制の確保
		・業務の経験者や専門技術者の配置
		・ミス防止体制の記載とその妥当性
		・セキュリティ及びコンプライアンス対策の記載とその妥当性
		・業務を遂行する上での工夫について記載とがその妥当性

試行2 技術者評価を重視した選定について 一般競争総合評価落札方式(1:3)の手続き



* 行政機関の休日に関する法律(昭和63年法律第91号)第1条に規定する行政機関の休日を含まない。
 ** 競争参加資格がないと認められた理由の説明要求があった場合、必要日数を確保して延期する。
 *** 「6日以上」とは、企業の見積期間を5日以上、開札を1日としており、最短期間の6日を提示しているものである。

3) 試行2 技術者評価を重視した選定について

(5) 入札公告、入札説明書

通常の一般競争総合評価落札方式(1:3)の入札公告、入札説明書に対して、下記事項等を削除・修正している。

- ①冒頭に、本業務が平成26年度 業務試行の対象であることを明記

＜入札公告・入札説明書の記載例＞

○なお、本業務は「平成26年度 試行業務」試行2 技術者評価を重視した発注方式の対象業務である。

- ②特定テーマに係る記述を削除
- ③評価項目、評価の着目点、配点表を修正
- ④ヒアリングに係る記述を修正(実施内容、配点の対象としないなど)

3) 試行2 技術者評価を重視した選定について

(5) 技術提案書の作成の留意事項

記載事項	内容に関する留意事項
実施方針	・本業務の実施方針について簡潔に記載する。 ・A4判1枚以内に記載する。
業務実施体制	・本業務の実施体制について簡潔に記載する。 ・A4判1枚以内に記載する。

3) 試行2 技術者評価を重視した選定について

(7) 試行業務の評価

試行結果の分析等に活用するため、以下の調査を実施する。

①「試行2」対象業務の調査

② 契約後の調査

- ・入札結果に関する調査

契約金額等、各評価項目の配点、入札参加者の得点

③ 業務完了後の調査

- ・業務成績評定点及びその詳細内訳の調査

④ 受発注者双方へのアンケート調査

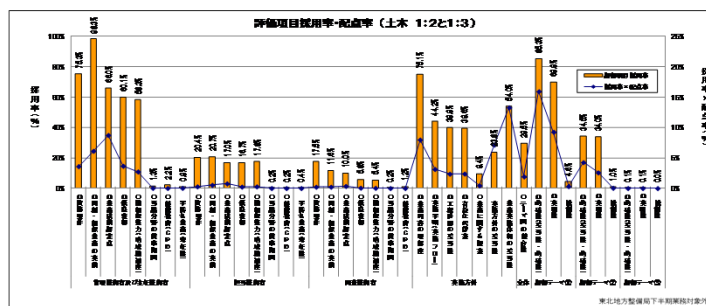
技術者評価を重視した選定について

【分析・評価方法】

I. 試行に関する評価方法

- ・試行業務の各評価項目の配点と得点の状況について集計・整理し(採用率、配点率、等)、落札者決定に影響を与えている評価項目や配点について分析・評価

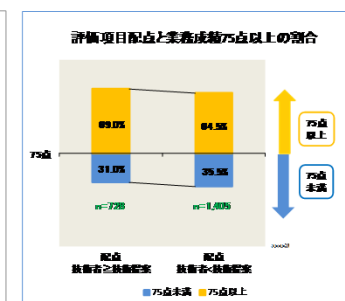
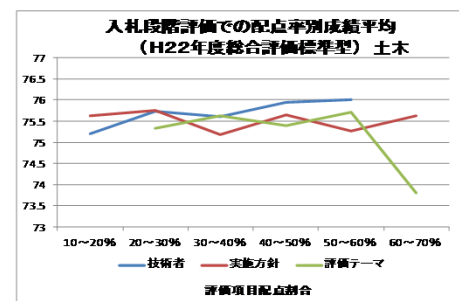
I. 分析イメージ



II. 試行業務の入口と出口の関係の分析・整理

- ・試行業務の入口での評価項目の配点率や得点率と出口の成績との関係について集計し、成績に影響のある評価項目について分析・評価

II. 分析イメージ



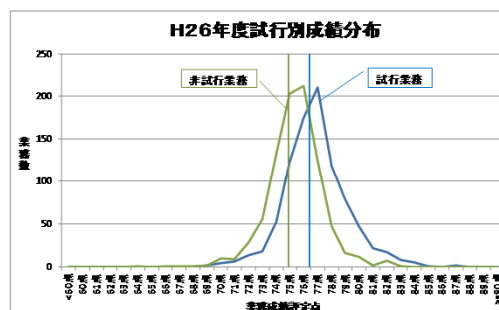
III. 試行業務と通常業務との比較分析

- ・試行業務と通常業務の成績について同種業務間で比較し、試行による成績について分析・評価

IV. アンケート結果の整理

- ・アンケート結果より、試行による作業負荷の削減等に関する効果の有無について整理

III. 分析イメージ



IV. 分析イメージ



V. 技術者評価の配点拡大

- ・上記の分析評価を踏まえて、技術者評価の配点拡大の妥当性、適用業務等について検討・整理